

私立 千葉商科大学付属高等学校 シラバス

地理歴史科「世界史探究（2年普通科特進選抜文コース）」	単位数	5単位	学科	普通科
	学年	2	組	H

1 学習の目標、評価の観点、内容及び評価方法

学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

育成する資質能力	「思考力」「判断力」
学校ルーブリック項目	「向上心」「自律」「自己肯定感」「友愛」「創造性」「社会貢献」「思考力」「判断力」「表現力」「人間関係力」

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているか。 諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察しているか。 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うことができたか。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができたか。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシートなど 準拠ノートなど 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（資料読解・論述問題など） 準拠ノートなど ワークシートなど 	<ul style="list-style-type: none"> 討論や発表 ワークシート・課題提出・授業態度など 小テスト
配分	70%	20%	10%

2 学習計画・使用教材

学期	学習内容	学習のねらい	備考（特記事項、他教科との関連など）
第1学期	第1章 文明の成立と古代文明の特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント世界とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 東南北アメリカ文明	【第1章】 ・文明が生まれるために必要だった条件を理解します。 ・オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を考察します。 ・南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴と、アー	①中間考査

<p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <p>1 中央ユーラシア—草原とオアシスの世界</p> <p>2 秦・漢帝国</p> <p>3 中国の動乱と変容</p> <p>4 東アジア文化圏の形成</p>	<p>リヤ人の進入が南アジアにもたらした変化について考察します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解します。春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序についての違いを考察します。 ・中南米にさまざまな先住民文明が栄えたことを理解し、そこでの支配の在り方を考察します。 <p>【第2章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解します。 ・漢の支配体制の変遷を理解します。統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を考察します。 ・遊牧民族の動きと魏晋南北朝の動乱の関係について理解します。また、この時代に仏教や道教が力を持つようになった背景や、中国の情勢が朝鮮や日本に与えた影響について理解します。 ・唐代初期の社会の特徴、制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解します。 	<p>②期末考査</p>
<p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <p>1 仏教の成立と南アジアの統一国家</p> <p>2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着</p> <p>3 東南アジア世界の形成と展開</p>	<p>【第3章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教やジャイナ教などの宗教について理解します。 ・南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展、クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を考察します。 ・8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解します。また、ヒンドゥー教が南アジア社会に根づいた背景を考察します。 ・東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察します。 	

	<p>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成</p> <p>1 イラン諸国家の興亡とイラン文明</p> <p>2 ギリシア人の都市国家</p> <p>3 ローマと地中海支配</p> <p>4 キリスト教の成立と発展</p>	<p>【第4章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解します。 ・パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解します。 ・ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解します。 ・ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を考察します。 ・ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較したうえで考察します。また、内乱の発生から終息までの経緯を理解します。 ・キリスト教の成立の経緯と、ローマ帝国によるキリスト教への対応を考察します。 	
<p>第2学期</p>	<p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <p>1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立</p> <p>2 ヨーロッパ世界の形成</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <p>1 イスラーム教の諸地域への伝播</p> <p>2 西アジアの動向</p> <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開</p> <p>1 西ヨーロッパの封建社会とその展開</p> <p>2 東ヨーロッパ世界の展開</p> <p>3 西ヨーロッパ世界の変容</p> <p>4 西ヨーロッパの中世文化</p>	<p>【第5章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解します。 ・イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を考察します。 ・ビザンツ帝国の繁栄と、ローマ教会とフランク王国の関係を、比較しながら考察します。 ・西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解します。 <p>【第6章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム化が中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカ・西アジアにもたらした変化と、その経緯について理解します。 ・十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察します。 ・イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解します。 <p>【第7章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解します。 ・十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を考察します。 	<p>③中間考査</p> <p>④期末考査</p>

	<p>第 8 章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p> <p>1 アジア諸地域の自立化と宋</p> <p>2 モンゴルの大帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビザンツ帝国の衰退の要因を考察します。 ・封建社会が解体に向かった背景，教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解します。 ・百年戦争によるイギリスとフランスの変容，スペインで国王による中央集権化が早く進んだ原因，神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を，考察します。 ・中世西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解します。 <p>【第 8 章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や，そこで成立した諸国の共通点を理解します。 ・ モンゴル帝国が成立した背景と，その支配が東アジアにおよぼした影響について理解します。 	
<p>第 3 学期</p>	<p>第 9 章 大交易・大交流の時代</p> <p>1 アジア交易世界の興隆</p> <p>2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容</p> <p>第 10 章 アジアの諸帝国の繁栄</p> <p>1 オスマン帝国とサファヴィー朝</p> <p>2 ムガル帝国の興隆</p> <p>3 清代の中国と隣接諸地域</p>	<p>【第 9 章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明朝初期の国内統治の特徴と，朝貢体制が諸地域にもたらした影響を考察します。 ・ 16 世紀の東南アジアで台頭した新興勢力の共通点を理解します。 ・ ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解します。 ・ 16 世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察します。 <p>【第 10 章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オスマン帝国の勢力拡大の経緯と，その統治が当時の人々に与えた影響を考察します。 ・ サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を考察します。 ・ ムガル帝国の基礎が築かれた経緯と，ヒन्दウー教徒とイスラーム教徒の関係を考察します。 ・ 清代における周辺諸国と中国との関係について，明代と比較したうえで考察します。 	<p>⑤ 学年末考査</p>

使用教科書	山川出版社「詳説世界史（世界史探究）」
副教材	第一学習社「グローバルワイド最新世界史図表」 啓隆社 「世界史重要語句 CheckList」 山川出版社「世界史用語集」 山川出版社「詳説世界史授業用整理ノート」 山川出版社「世界史総合テスト」

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<p>①授業を「集中」して受けることが大切です。特に部活に加入している生徒は、勉強時間を確保しにくいと思います。授業ですべてを理解する気持ちで臨んでください。</p> <p>②板書以外にも自分が気づいたことや考えたこと、先生や他の生徒の意見を記入するなど「ノート」のとり方を工夫してください。</p> <p>③授業で学習したことをもとにして、「新聞」（特に国際面）を読んでください。基礎・基本問題は『世界史重要語句 CheckList』を使用して定着させ、問題集を活用して実力向上をはかりましょう。「基礎・基本」を2～3回繰り返し解き、内容が理解できたら「応用・実践問題」にもチャレンジしてください。</p>
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<p>①授業ノート・『最新世界史図表』・『世界史用語集』を必ず持参し、活用しながら授業を受けてください。</p> <p>②生徒と教師・生徒と生徒の「対話」がある授業（発言の多い授業）は、たいへん楽しいものです。正誤を気にする必要はありませんので、積極的な発言を期待します。</p> <p>③集中して取り組むとき、リラックスするときなど授業にメリハリをつけて下さい。</p>
その他のアドバイス	<p>①世界史の学習は、細かい年号や人物名、事件名などを暗記することだけではありません。基本的事項をきちんと暗記・理解しながら、歴史的出来事に「どのような背景があるのか」「わが国とどのような関わりをもっているのか」「世界の中でどのように位置付けられているか」を意識して勉強してください。</p> <p>②歴史を様々な角度から捉えるように意識してください。</p> <p>③授業内容と大学入試の内容は、かけ離れたものではありません。大学入試に対応できるような学力を身につけつつ、世界史を学ぶ楽しさを感じてください。</p> <p>④世界史に関するTV番組・DVDを見たり、図書館・博物館・企画展等へ行くことにより、歴史への興味・関心が高まります。是非足を運んでみてください。</p>